

将来にわたって希望を持てる、 福井の未来を共にひらきましょう！



○長期ビジョンの実現

令和5年の冠山峠道路、令和5年度末の北陸新幹線福井・敦賀開業、令和8年春の中部縦貫自動車道県内全線開通など、福井県は今100年に1度のチャンスを迎えています。

また、コロナ禍で、都市部に人口集中するリスクと分散型国家の重要性、働く場所を選ばないライフスタイルが注目され、地方の可能性が広がっています。

本県は、豊かな自然や歴史文化、家族や地域のつながり、子育てや教育、産業・雇用の充実した基盤、勤勉な人材など、世界に誇れる日本らしさや本物の魅力にあふれています。

これまで培ってきた「幸福度日本一」に磨きをかけ、次の時代に受け継ぐと、2040年に目指す姿を県民のみなさまと共有する「長期ビジョン」を策定しました。ビジョンづくりには五千人超の県民が参加。『「安心のふくい」を未来につなぎ、もっと挑戦！もっとおもしろく！』を基本理念に、誰もが夢や希望をもってチャレンジできる、それを互いに応援するワクワク・ドキドキの福井の実現に全力で取り組みます。



○新幹線時代に魅力あるまちづくり

北陸新幹線金沢・敦賀間については、工事が順調に進んでおり、県内4つの駅舎も姿を現してきました。令和5年度末の開業に向け、引き続き工程および事業費の適切な執行を国に確認してまいります。並行在来線については、増便やパターンダイヤ、新駅検討等を進め、みんなに愛される県民鉄道として利便性・収益性の向上に努めます。

敦賀・新大阪間については、北陸新幹線建設促進同盟会会長として、沿線10都府県および経済界、県議会と一体となって、機動的な要望活動を積極的に行い、早期着工を政府・与党に強く求めてまいります。

県内開業に向けて、令和6年夏にフルモデルチェンジする恐竜博物館をはじめ一乗谷朝倉氏遺跡、東尋坊、丹南の伝統工芸産地、三方五湖、若狭湾などの観光地や宿泊施設、さらには越前ガニやいちほまれ、そばなどの食を磨き上げ、本物のふくいの良さを「見える化」していきます。

福井駅周辺については、世界的ホテルのマリオットグループ進出など、再開業事業が着実に進んでいます。県都にぎわい創生協議会では、民間主体のアリーナ整備検討や商業エリアのリノベーション支援などの議論が進んでいます。引き続き、経済界、市、県が一体となって、観光客受入れや新たなビジネスの仕掛けづくりなど、開業後の持続的なにぎわいづくりに取り組みます。



皆様の力強いご支援を宜しくお願い致します。



○ものづくりから価値づくり

千五百年の歴史を誇る越前和紙や越前漆器をはじめ打刃物、越前焼などの伝統産業、近代以降の繊維や眼鏡など、福井には優れたものづくり産業があります。こうした本県の強みに付加価値を加え、さらに魅力あふれる産業にしていきます。例えば、伝統工芸や眼鏡の工房を開放して産業観光化したり、オーダーメイドの製品づくりで認知度や特別感を高め、売上や価値自体をさらに上げていきます。

そして、県民衛星を成功させた宇宙産業やソフトウェア開発、カーボンニュートラル時代に囑望される電池開発、炭素繊維など、本県の産業集積と高度な人材を土台とした価値づくり産業を支援していきます。企業誘致は、投資額や雇用数にとらわれず、都市圏と変わらない待遇や県のプロジェクトに合致し新たな価値をもたらす分野に転換し、私自らトップセールスしてまいります。

また、東京のアンテナショップ移転拡充や名古屋事務所開設などを通じ、県外でのビジネス展開を積極的に支援していきます。



○DXの推進

生活・産業・行政の分野で、DX（デジタルトランスフォーメーション）を強力に進めていきます。事業者向けにふくいDXオープンラボを開設し、ワンストップで設備導入支援や相談業務を行います。ふくいITエンジニア養成スクールも開講し、中小企業のIT人材を養成していきます。また、市町と連携して電子申請を積極的に導入したり、民間との協働プロジェクト「スマートシティXプログラム」

を実施し、例えば自動で交通危険箇所を洗い出すなど、県民のくらしの質を一層高めていきます。



○新たなチャレンジ（起業）を応援

スタートアップや起業を強力に支援します。成功した企業人が次の若い芽を育てる「福井型エコシステム」をスタートしました。福井ベンチャーピッチ、全国展開をめざす起業家を応援する100億円の官民ファンド、経営塾、高校生のアイデアコンテストなどを通じ、次の起業家を育て応援します。また、事業承継では、黒字や優れた技術を持つのに後継者不足で廃業に至らないよう、新たな挑戦や初期投資への助成、

親族以外の第三者を含めたマッチング・相談などについて、商工会議所と連携してワンストップで応援していきます。

さらには、副業や雇用シェアの推進にも力を入れ、多様な働き方の応援や労働のミスマッチ・人材不足の解消を進めます。

